

2日目
第四部

大学教育改革研修 「これからの大手前大学」

-C-PLATSを座標軸に据えて-

Planning & Presentation

平成23年3月11日(金)
於・シーサイドホテル舞子ビラ神戸



福井 愛美 先生

もしも。山下先生と私、2人の解釈が入っているの、多少異なる点もあるかもしれませんがご理解いただきたいと思ひます。

まず、私たちはプランニングとプレゼンテーションということの共通理解から始めました。もちろんこの「OCD2011」に書かれている内容のとおりなのですが、計画力とはプランニングとはどういうことなのか。その定義は、「ビジョン到達目標を定め、そのゴールにもっとも効率よく到達させるための主要な方法や手段を策定する能力」というふうにかけています。この能力の基本メソッドというのが、plan, do, check, action, つまりPDCAサイクルを基本としていて、その能力開発の中には計画する能力と書く能力の2つがあげられています。そして到達基準に関しては、かなり意見が出ました。この到達基準で果たしていいのかという意見も出ました。

次に、プレゼンテーション力というのは「アイデアや計画を内外の集団・組織に説明し、理解・共感を得て聞き手の意思決定を促す能力」という定義があるのですが、プレゼンテーション力というのは、事前準備、ストーリービルディング、発表の3つのプロセスからなる「OCD2011」の中に書かれています。これは社会人というビジネスの現場では確かにそうかもしれないのですが、プレゼンテーションはこれだけではないのではないかという意見が最初に出ました。また、事前準備の目的や聞き手の分析の項目のところでは、聴衆分析するといつても1年生のプレゼンテーションでは、先生と生徒しかいないのではないかという意見も出ました。

私たちのグループと他のグループと同様かもしれませんが、とくにコアカリキュラムの中の1年次、キャリアデザインについての意見に集約されました。その中でいろんな意見が出たのですが、どのようにまとめるか悩みましたが、山下先生がうまくまとめてくださいました。多少ニュアンスは異なるかもしれ

分科会メンバー

- | | | | |
|-----|-------|-------|-------|
| ●教員 | 井澤 幸三 | 稲積 包昭 | 井之上節朗 |
| | 岡 佳子 | 奥田 雅信 | 神農 悠聖 |
| | 田中 紀子 | 畑 耕治郎 | 福井 愛美 |
| | 藤田 道代 | 堀川 諭 | 水口 薫 |
| | 山下真知子 | | |
| ●職員 | 辻村不二夫 | 正田 浩三 | 安井 敏裕 |

私たち、プランニングとプレゼンテーションの分科会も、かなり白熱いたしました。昨日かなり遅くまで話し合いをいたしたのですが、これから発表させていただく内容で昨日の先生がたのすべてのニュアンスをお伝えすることはできないか



れませんが…。

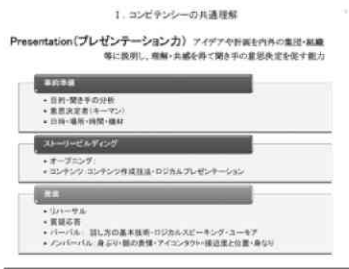
●山下先生一

何度も出てきてすみません。私たちはミーティングメモという形でご報告させていただきます。やはり先ほど読み上げていただいた定義、難しいねというニュアンスがミーティング全体にありました。が、たくさん出た意見をまとめたものです。

まず、簡単な課題と期日を与え、計画させ、手段をみつけ実行し完結させる。具体的にどういう意見が出たかという、たとえば図書館に行って本を探すこともプランニングじゃないの、という意見が出た一方で、そうではなく、プランニングとは同心円なんだと、PDCAがぐるぐる回っているように、その状態が1年生、2年生、3年生と積み上がって、だんだん複雑なプランニングができるようにならないといけないんだという意見が出ました。それで、定義の中でも一つの項目の中にたくさんの目標が入っていて、その目標を置き去りにしてそれを段階的に各年次でやっていくのか、いや、ひとりの同心円を繰り返し、らせん状にやっていくのかということの基本的な共通理解に相当時間がかったような気がします。

まずはキャリアデザインのIIでの、具体例としてはどのような事が考えられるのか、ということになりました。今まで初年次でやってきたようなことかもしれませんが、たとえば「地域を知る」、初年次期の知る、わかる、というのがありますが、伊丹市の歴史の調査、という課題を与えて、期日までにそれらをまとめて発表するという流れを踏ませる。あるいは、学内だと、提案にあるような「インタビュープロジェクト」なんかもそうだよという話も出ました。次に出たのが、簡単な課題をまず教員が与えるということ。ここでは最終的にPDCAサイクル、これは絶対押さえないとねという話になりました。

2つめは自分の身近な問題や目標とありますが、この自分の身近な問題や目標を達成する実行計画を立てさせる。むずかしく書いてますけれど、はっきり言って、学生生活を知ること、で、日程表、半年間、4年間の学生生活で何をやるかの計画書です。これまで自己発見レポートなどやってきましたが、これを自らつくるというメニューを入れてはどうかということです。それともちろん履修計画や時間割の作成ということも丁寧にキャリアデザインのチームの中に入れていかなければいけないんじゃないか。これはプランニングの授業そのものなんじゃないかというような意見が出ました。そして身近なことでは、たとえば自分の趣味のことでいいんじゃないですかという意見が出ました。釣りにいくにしても天候にして



も電車のことにしても、何時に誰とどこで待ち合わせるかというふうに。大事なことは1年生の学生にとってとても身近なところから、それは簡単なという言葉に表れているんですが、計画を立てる練習。そういったことからスタートしてはどうかという形になりました。

その他ですが、もちろん読み書き、計画書を書くための基本的文章を書けることは必要だよとか、単純な課題から複雑な課題をやっていくことが必要だよとか、図書館指導というのも1年生に対してはありますので、図書館を使ったプランニングの授業にはなにかがあるのかなどの意見が出ました。本を探して、見つけて、借りて、期日までに返さなければいけない。それをキャリアデザインの授業でどんな本だったかを紹介するというのも例として出ました。みんなに紹介する、「声を出す」と書いてありますが、声を出させることも一緒にやっていかなければいけないということです。取り組み期間でレベルを上げていく、グループでプランニングする。結局私の私見なんですけど、さまざまな要素が組み合わさっているんです。これはたまたまプランニングとプレゼンテーションのセッションなのですが、プランニングの最後にはプレゼンテーションの

Planning Meeting Memo

17 簡単な課題と題目を考えて計画させ、半程をみつけて実行し、完成させる
結果に対する反省をする → FOCAサイクル

●トピック
 地域を知る 伊丹市の歴史の課題
 学内を知る インタビュー

12 自分の身近な問題や課題を達成するための実行計画を立てさせる

●学生生活を知る
 目標表、半年間、4年間の学生生活で向き合えるなどの計画書
 履修計画、時間割の作成
 実行計画を立てる

●その他
 読み書き計画書を書かための基本的な文章が書ける。
 一週分の計画を、単科の課題から管理な課題へ。
 授業報告書 授業前/中/後を振り返る。自分の気づきを入った
 紙を提出す。興味を共有する。
 一人一人に紹介する。(書き出す)
 取り返り期間でレベルを上げていく。
 グループでプランニングする。(輪読)

Presentation Meeting Memo

13 与えられた課題について人前で報告ができる。
 12 自分の意見を説明することができる。
 13 人の意見を思いやりを持って聴く/受け止めることができる。
 14 自分の得意な方法(ツール)を用いて人前で発表することができる。

●トピック
 聴く/話す
 人のプレゼンテーションを聴き、受け止めた内容及び感想を書くことができる
 良いプレゼンテーションを見る。

●ツールを使う
 スライド5枚(表紙、表の表紙1枚含む)程度の資料を作ることができる
 その資料を提示して3分程度の発表ができる

●ツールを考える
 本の内容を自分の得意な方法で人に紹介することができる

行為、手段も入ってきます。となれば声を出すコミュニケーションも必要だといことになり、結局プランニングとは広範囲だねというように、考えに至りました。

もう時間もないからプレゼンテーションに行きましょってことで、次はプレゼンテーションのミーティングメモです。(1から4)までまとめています。(1)、与えられた課題について人前で報告できる、(2)、自分の意見を説明することができる、(3)、人の発表を思いやりをもって聴く、受け止めることができる、この3)はミーティングが自然した段階で、全員の先生がもう本当のため息が出るほど、そうだね、これが大事だと。話すことばかりじゃなく、聴くということがとてもプレゼンテーションには大事な要素なんだということは全員一致した意見だったと思います。(4)、自分の得意な方法(ツール)を用いて人前で表現することができる。ここでも出ました。多様な学生たちのすべてがパワーポイントを使って何かができるということでもなくて、なにか自分の得意なツールを用いて人前で表現することが大切で、1年生のうちはそこまでできればいいんじゃないかという意見が出ました。メニュー例としては聴く/話す、人のプレゼンテーションを聞き、受け止めた内容および感想を書くこ

とができる、そして、そのときには良いプレゼンとか良い作品などに触れさせることが本当は重要なのではないかと言うことが話されました。ツールを使うというところでは、スライド5枚、表紙とご静聴ありがとうございますの裏表紙を除いて中3枚程度の資料を作ることができ、その資料を提示して3分くらいの発表ができる。こうやって数と量で提示するという課題のやり方もありだね。これが2年生になれば多くなり、3年生になれば目的、方法、結果、まとめ、今後の課題というような形で論理的に考えていけるようにすればいいのではないか。ツールを使うという点では、ツールはパワーポイントだけではなくのではないかという意見も出ました。ツールを考えさせてはどうか。本の内容を自分の得意な方法で伝えることができる。これはメニューとしては1年生に最適なのではないという意見が出ました。

まとめです。能力のレベルを左側に、その下に今後の具体例を上げました。右側にはそれぞれプランニングとプレゼンテーションの項目を、今申し上げた順に表にまとめてみました。特に1年次のコア教育というところは申し上げたとおりですが、講義科目についてはどうか。トライアル100科目についてはどうだろうかということも話し合いました。やはり100人ベースの1年生が初めてきたときに、先ほど酒井先生のお話にもありましたが、興味や関心をもっていただくためのトライアル科目なんです。その中で100人の人たちにどうやってプランニングとプレゼンテーションを入れていくのでしょうか…となってきました。質問も逆にそこでこれを取り入れるならば、できるかぎり質問を投げかけることを多くしよう。そして質問に対応する答えを引き出すような、教育技術が先生がたの努力で入れていくくらいか今の現状ではできないのではないかと問題提起も出ました。そして今後の課題ですが、このディクショナリーが現時点でOCDのうちコア授業や演習授業で導入できる可能性は持っているんだが、すべての授業に導入するのはむずかしいよねという事。私が言った100人トライアル授業とか、その何を解決すればもっと可能になるかという点については、まず教室環境や設備の整備が要るといった意見が出ました。たとえばパワーポイントでプレゼンの練習をさせようと思っても、キャリアデザインⅡの教室にはそういうシステムがない。ハードな部分の設備がなされないといけないんじゃないかというのは、ほとんどの先生がたがおっしゃいました。それと、受講人数が多いので導入が難しいものもあるということです。それともう一つ言い忘れましたが、トライアル科目に関心をもたせるための授業というのは、初めの第一歩の知識を

丁寧に教えないと、100人の学生たちは、プレゼンやプランニングの力の育成までいかなないと、行かないけれどすべきなんだろうかと。知識をきっちり丁寧に教える、なぜか、書かせる。その程度でとどめる授業があってもいいのではないかなど、科目の持つ性質を整理して考えていかなといけないという前向きな意見が出ました。それとゼミナルなどのようできるだけ少人数の科目を、これは1年生もグーなのですが、専門科目を増やしてもらえないかという要望も出ました。そうすればもっとおもしろい授業がいっぱいできるのという考えです。それと2つめにOCDの解説が難しいという事。これは全員一致の意見です。たとえばOCDについての現場に近い解説書が必要だと、これは小学校などの指導案という分厚いものがありますが、そこで解決すべき検討事項は何なのかということで、教員が内容を理解したうえで、これを4月に配布するというを昨日おかけいしましたけれど、先生も理解できてないのに学生に配布していいのだろうかという意見が出ました。それなら先生はこれを熟知しなければいけないという前向きな意見が出ました。熟知するためには翻訳が必要だという意見も出ました。OCDの現場に即した内容に解説される必要がある。これは誰がということではなく、今後の課題として必要だという話も出ました。以上が私たちが1時間くらいまで話し合った内容です。ありがとうございます。

●福井—

山下先生にご報告いただきましたが、100番以外の専門科目についてどのような能力を付けさせるべきかという具体的な話には昨日の段階ではいりませんでした。むしろ今後の課題のほうに意見が集中したわけですが、これについてはまた改めて考えていかなければならないことではないかと思いつつ、時間切れで昨日は終了しました。以上です。ありがとうございます。

●司会—

今の発表に関してご質問、ご意見はありませんか。

●水口先生—

補足です。プランニングとプレゼンテーションは実際に授業で取り入れて実施しています。私のところの1年生は、これはマンガやアニメーションなどいろんな種類があるんですが、オムニバスになっています。実際に私はアニメーションを3週間しか教えることができません。1週目はアニメーションがいったいどういう原理なのかを経験させる、次に作品作りをさせる。そして3週目には作品を出さないといいけない、という課程でどういったストーリーを考えていこうか。そうすると実際1週目に

やったときにこのくらいの動きに何秒間かかるか、とか、ストーリーを考えさせるときに何秒間、動かさなければいけないか。また背景をつくるどのくらいかかるかの計画を立てさせる。ストーリーという絵コンテを考えるという形もあります。まずはそれらの事をプランニングをさせます。それができた段階で私のところにもってプレゼンテーションをさせます。そこでもできるもの、できないものを判断させますが、実際にやれば間に合わなくなることもあり、そうすると最終的に作品としてどこで切り上げるかということも考えないよということで進ませます。最終的に作品として出すわけですから、納得する作品を出す学生もいれば途中の学生もいます。ですからその時点でプランニングということとプレゼンテーションということを実際に行っているわけです。2年生3年生と作品を作っていくなければいけない。作品は期限がありますので、残念ながら期限に間に合わないということもありますが、簡単なプランニングとプレゼンテーションはさせています。

●司会—

ありがとうございます。

まとめ

	Planning	Presentation
教員のレベル	(1)簡単な課題と期日を与えて計画させ、手段をみつけて実行し、完成させる。 (2)自分の身のまわりの生活や身近な生活に関する課題を設定させる	(1)7分程度のプレゼンテーションで報告ができる。 (2)自分の意見を説明することが出来る。 (3)人の意見を悪い印象を持って聞く(受け止める)ことができる。 (4)自分の得意な方法(ツール)を用いて人数で発表することが出来る。
教員の教養	1年次のコア教育 経歴科目 伊丹市の歴史の調査 学内科目 インタビュー 学外科目 映画鑑賞 基礎知識 演劇鑑賞の基礎 実践科目 質問を投げかけで考えさせる。	1年次のコア教育 ●人のプレゼンテーションを観る、受け止める内容及び感想を書く ●スライド5枚(巻頭・本文の各1枚含む)程度の資料を作り3分程度の発表をする 実践科目 質問に対する答えを引き出す。

今後の課題

●同時期にOCDの1年次のコア教育や実践科目も導入できたら、OCD授業の導入は可能!
解決すべき検討事項 (1)授業環境や設備 (2)ライバル科目は受講生数が多い
ゼミナルなどのような、できるだけ少人数の科目を専門科目でも取り入れてほしい。
●OCDの解説が難しいため、OCDについての現場に近い解説書が必要である
解決すべき検討事項 教員が内容を理解したうえで、学生に配布してほしい OCDを現場にそした内容に解説される必要がある